

### 後藤政務官が冒頭 5 分弱の挨拶を行い其の後退席された。

大変あの一、先生方には平生お世話になりまして、有難う御座いました。今日は第 4 回だと思いますが、ISS 特別部会と云う事で、今日は関係企業の社長さんの辺りにも頂きまして、開催出来ます事を、心から改めて御礼申し上げたいと思います。

今あの、野口さんが 5 ヶ月半ぶりに宇宙から帰還したと、ま、良いニュースが昼間入ったんですが、ま、其の 2 時間位前に鳩山総理が突然の辞意表明と云う事で、ま、実は非常にバタバタして居りまして、一方では行政デビュー<sup>1</sup>と云うですネ、鳩山内閣としてのタイノ(?)で今、一寸仕事をして居りますんで、ホントはあの一、エー、出来るだけ長く居てお話をお伺いしたいと思いましたが、途中であの中座する事を是非お許しください。

私もあの、此の 8 カ月程宇宙政策に携わらせて頂きまして、矢張り此の ISS と云う問題が、これから 5 年後にはどう云う風に補修するかと云うご議論をですネ、適宜、出来るだけあの、沢山の皆さん方のご意見で、中でやって頂きたいと云う思いと、もう一つは宇宙と云うのは当然あの非常に知的な魅力や、又あの、色々な新しい技術を作っていくには当然必要欠くべからざるもの<sup>2</sup>だと云うものだと云う風にジショウ(?)してるものですね、中々その、

<sup>1</sup> 社会一般に「事業仕分け」と称して居るものを指している様だ。何の意図で此れに言及するのか。上手に説明出来なければ「廃止」になると脅しているのか。

<sup>2</sup> 「必要欠くべからざる。」は勇ましい言葉であるが、「知的な魅力」と「新しい技術」だけでは説得力が無いだろう。

ISS もそうかも知れませんが、宇宙産業と云うものですね、どう云う形ですね、国民生活にとってプラスになって行くのかと云うものをもう少し分かりやすくですネ、国民的な合意形成の中で、国民の納得を得ると云う努力も、一方で必要だ<sup>3</sup>と云う風に思っています。

実は今日、行政レビューって云うのでは、大学の支援関係の幾つかの事業にですネ、対応したんですが、結論的に言えば、大変あの重要な事業であるものの、矢張り国費の投入や、又あの既存の事業とのですネ、重複も含めて大きく見直さなければいけないと云う部分で、取敢えず廃止と云う事を 3 つの事業でして参りました。当然あの、廃止と云う白地の中ですネ、一つ又新しい方向性を、社会的なニーズ、国民的なご意見の中で作って行くと云う、そのスタートに出来ればと云う風に思っています。此のあの、エー、特別部会のですネ、多分ご議論も、エー、一番スタートの時に委員長からもお話を、多分して頂いてると思いますが、矢張りあの一、宇宙産業と云うのが、当然あの費用対効果だけでは、為されるものは無くは無いいし、又其れが具体的により明示できれ

<sup>3</sup> 柔らかな言葉遣いをしているが、要するに「宇宙活動を国民は納得して居ない。」と言っている事になる。少なくとも、後藤政務官は納得できない様である。「国民生活にプラスになる」最も大切なものの一つが安全保障であるが、此れを「国民的な合意形成」にする事は至難の業である。多くの国民は今日・明日が大切であり、遠い将来に心を馳せる事はしないので、「合意形成」の努力は暖簾に腕押しである。「言ってる事は分からないでもないが、興味は無い。」のである。

ば、よりあの、オー、国民的なニーズと云うものが分かりやすくなると云う風に、私は個人的には思ってますが、今迄の歴史的な経験則や、またあの、科学者の描かれてる部分で言えばですネ、其の必要性と云うの、もう解ってるか、もう言わなくても良いと云う風な事も、若しかしたらあったかも知れませんが。其れを乗り越えて是非、より良いですネ、ISS の在り方、また、宇宙産業全体のですネ、将来ビジョンを、此の特別部会の中で纏め上げて頂きたい<sup>4</sup>と云う風に心からお願い申し上げます。

今日はあの、3人の、夫々宇宙産業に関わる、業界の社長さん達にもおいで頂いてますんで、是非あの、忌憚のないご意見を賜りながらですネ、此の会が上手く纏まって行くようにお願いするとともに、冒頭申し上げました様に、今日で8ヶ月半の鳩山政権が取敢えず終了し、明日11時に両院議員総会で新しい民主党代表が決定をされ、午後のですネ、首班指名の中で、新しい総

---

<sup>4</sup> 「費用対効果」との言及は、宇宙活動は金が掛る割に効果が無いと言っている事になる。此处で、「効果」とは何を指しているのが重要である。日本で一般的に「効果」と云うと、先ず「経済」を指している。次には「エネルギー」を指している時もあるかと思う。そして、「国民や民族の存続」を「効果」と表現する事は殆ど無い。そんな背景の中で、本当に「将来ビジョン」を「纏め上げる」作業を、一つの特別部会で達成する事が出来るのだろうか。寧ろ、「行政には任せない」との強い意志をお持ちの「政治家」こそ、其の様な議論をするのに相応しい人物なのではないか。尤も、「政治屋」は沢山いらっしゃるものの、「政治家」が稀少であって、「有識者会議」に依存したくなる環境ではある。

理の下で新しい組閣と云うのが、多分明日中に終了する事なってます。現体制がどの様に存続をするのか、良く、未だ分からない部分が沢山ありますが、何れにしても此の部会、特別部会ですネ、取り纏められた結果はですネ、キチッと。仮に大臣が交代しようがですネ、新しい民主党政権の中での議論の集大成<sup>5</sup>でありますんで、キチッと其れをですネ、これからの宇宙政策に活かす様な形に、私の責任でも左様させて頂くと共に、大変短い間ではありますけども、大臣はじめ私達にですネ、一つの(?)立場からご指導賜った事を心からお礼を申し上げまして、簡単ですが、私から皆さん方への今日のご挨拶とさせていただきます。キョウダンエンシュツノ(?)宜しくお願い致します。有難う御座います。

---

<sup>5</sup> 「集大成」と煽てては居るものの、「民主党政権」の範囲内と言っている。そんな事ではない。政権をどの党が執っていようが、「国家の行く末を熟慮した結論」が求められているのではないか。